

がん治療と妊娠・出産について

がんと診断された方やご家族の皆様へ

がん治療を受けることで、妊娠する力・妊娠させる力(妊よう性)が低下し、将来自分の子どもを持つことが困難になることがあります。

がんと診断されたばかりで、がん治療以外のことは考えられないかもしれません。

でも、妊よう性を温存することについて、また将来子どもを持つことについて理解し、納得した上でがん治療を受けていただくことを願っています。

まず、がん治療担当医から説明を受けましょう。

がん治療により妊よう性にどのような影響があるか確認しましょう。将来自分の子どもを持ちたい方は、妊よう性を温存するために、受精卵や卵子、精子などを保存する方法(妊よう性温存療法)があります。がん治療と妊よう性温存が安全に両立できるか、がん治療のスケジュールと照らし合わせ確認しましょう。

なお、妊よう性温存療法は、**がん治療後の妊娠を保証するものではありません。**

一人で悩まずに、
家族やパートナー、
がん治療担当医や医療スタッフと
十分に話し合しましょう。

まずはがん治療が
最優先です。

がん治療による妊よう性への影響

手術による影響	両側卵巣、子宮、両側精巣の摘出などにより、妊よう性に影響があります。
放射線治療による影響	腹部・骨盤部に放射線の照射が行われた場合は、精巣・卵巣への影響があり、照射される放射線の量が増えるほど影響が大きくなります。 また、脳の視床下部や下垂体に照射が行われた場合、精子の形成の阻害や排卵障害が起きることがあります。
薬物療法による影響	抗がん剤などがん治療の薬剤の中には、精巣・卵巣機能に大きく影響するもの、ほとんど影響しないもの、影響するかどうかかわかっていないものがあります。

※詳しくは、がん治療担当医や薬剤師に確認してみましょう。

1.がん治療から妊よう性温存療法までの流れ

①がん治療担当医と相談しましょう

がんの種類、治療内容等で、がん治療が妊よう性に与える影響は異なります。ご自身が受けるがん治療が妊よう性に与える影響がどのくらいあるか相談しましょう。

②妊よう性温存を希望する場合 ⇒ ③へ

妊よう性温存をしない場合 ⇒ がん治療を開始してください。

※がんの治療中や治療後も妊よう性に関する相談はできますので、不安になったら医療スタッフにご相談ください。

③妊よう性温存療法実施機関の検討を行います

愛知県では、次ページに記載の医療機関で妊よう性温存療法の相談・提供を行っています。がん治療担当医と相談し、受診する医療機関を検討し、紹介してもらいましょう。

④妊よう性温存療法実施機関を受診しましょう

専門医により、具体的な妊よう性温存に関する説明(カウンセリング)を受けた上で、妊よう性温存療法を受けてください。 ⇒⑤へ

※カウンセリング料及び妊よう性温存療法に係る費用は自費負担になります。詳細は受診される医療機関にご確認ください。

説明(カウンセリング)を受けた結果妊よう性温存療法を行わない場合、がん治療を開始してください。

※がん治療終了後でも必要に応じて専門医の相談を受けることができます。

⑤妊よう性温存療法実施後、がん治療を受けましょう

①の段階で、医療スタッフ(看護師、薬剤師、相談支援員、臨床心理士)にも相談可能です。



妊よう性温存を希望しても、病状等により叶わないことがあります。

妊よう性温存療法以外にも、養子縁組など、他に子どもを持つ方法があります。

2.妊よう性温存療法一覧

男性	女性		
精子凍結	卵子凍結	受精卵(胚)凍結	卵巢組織凍結
採取した精子を凍結する。	採取した卵子を未受精で凍結する。処置に2~6週間必要。	採取した卵子をパートナーの精子と受精させ、凍結する。処置に2~6週間必要。	手術により卵巢組織を採取し、凍結する。処置に1~3週間必要。
詳しくは妊よう性温存療法実施機関やがん相談支援センター(裏面参照)にご相談ください。			

3.妊よう性温存療法の費用

妊よう性温存療法は自費診療になります。以下の費用はあくまで目安です。
詳細は受診される妊よう性温存療法実施機関にご確認ください。

カウンセリング	数千～1万円前後
精子凍結 (精巣精子採取術を併用した場合)	約5万円 (約40～50万円)
卵子凍結	約20～40万円
受精卵(胚)凍結	約30～50万円
卵巣組織凍結	約60～80万円
凍結保存した場合の年間更新料	約2～6万円

出典:「がん治療を開始するにあたって<抗がん剤編>」
小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究班作成

※がん治療後、凍結保存した受精卵等で妊娠を試みる場合は、別途費用がかかります。

4.愛知県がん患者妊よう性温存治療費助成事業

愛知県では、43歳未満でがん等の治療をされている方に、妊よう性温存療法にかかる費用の助成を行っています。

対象となる治療	1回あたりの助成上限額
精子凍結に係る治療	2万5千円
精巣内精子採取術による精子凍結に係る治療	35万円
卵子凍結に係る治療	20万円
受精卵(胚)凍結に係る治療	35万円
卵巣組織凍結及び再移植に係る治療	40万円

※助成回数は、対象者一人に対して(異なる治療を受けた場合であっても)通算2回までとなります。

受精卵(胚)凍結及び卵子凍結は、1回の採卵周期に行った治療を1回、精子凍結は1回の採精手技を1回と定義します。卵巣組織凍結及びその後の再移植はそれぞれを1回と定義します。

助成対象となる費用は、治療に要する費用(初回の凍結保存に要する費用を含む。)に限るものとし、入院室料(差額ベッド代等)、食事療養費、文書料等治療に直接関係のない費用及び凍結保存の維持にかかる費用等は対象外です。

☆助成事業の詳細はこちらから御確認ください ⇒

(または「愛知県 妊よう性」とウェブで検索)

※愛知県で妊よう性温存治療が実施できる機関も掲載しています。



5.愛知県のがん相談支援センターのご案内

がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」では、がんに関する様々な相談にお応えしています。相談は無料です。

妊よう性温存について、がん治療担当医にどう相談したらいいかわからない場合や、医療費や療養生活についてなど、お困りのことがありましたらご相談ください。



愛知県の相談支援センター一覧

6.WEB情報

がん治療と妊よう性温存について、以下のホームページでより詳しく解説しています。

国立がん研究センター
がん情報サービス



「妊よう性 男性患者とその関係者の方へ
～がんの治療と生殖機能への影響について～」

国立がん研究センター
がん情報サービス



「妊よう性 女性患者とその関係者の方へ
～がんの治療と生殖機能への影響について～」

日本がん・生殖医療学会



小児・若年がん長期生存者に
対する妊^{よう}性^のエビデンスと
生殖医療ネットワーク構築に
関する研究



がん治療後の
将来に向けて、
より良い選択を!



作成：愛知県保健医療局健康医務部健康対策課
〒460-8501
愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
☎052-954-6326